

未来を照らすチカラを養う

名城大学

特集－名城大学

1926年に前身となる名古屋高等理工科講習所が開設された。以来、名城大学は理系の教育研究を柱に総合大学としての教育体制を構築し、9学部24学科、大学院10研究科を擁する中部圏最大規模の文理総合大学へと発展を遂げている。現在、2026年の開学100周年に向け「生涯学びを楽しむ」をテーマに掲げた戦略プラン“Meijo Strategy2026(通称 MS-26)”を推進している。



“粘り強く楽しむ” 研究者スピリッツ

「研究の名城大」に受け継がれる伝統

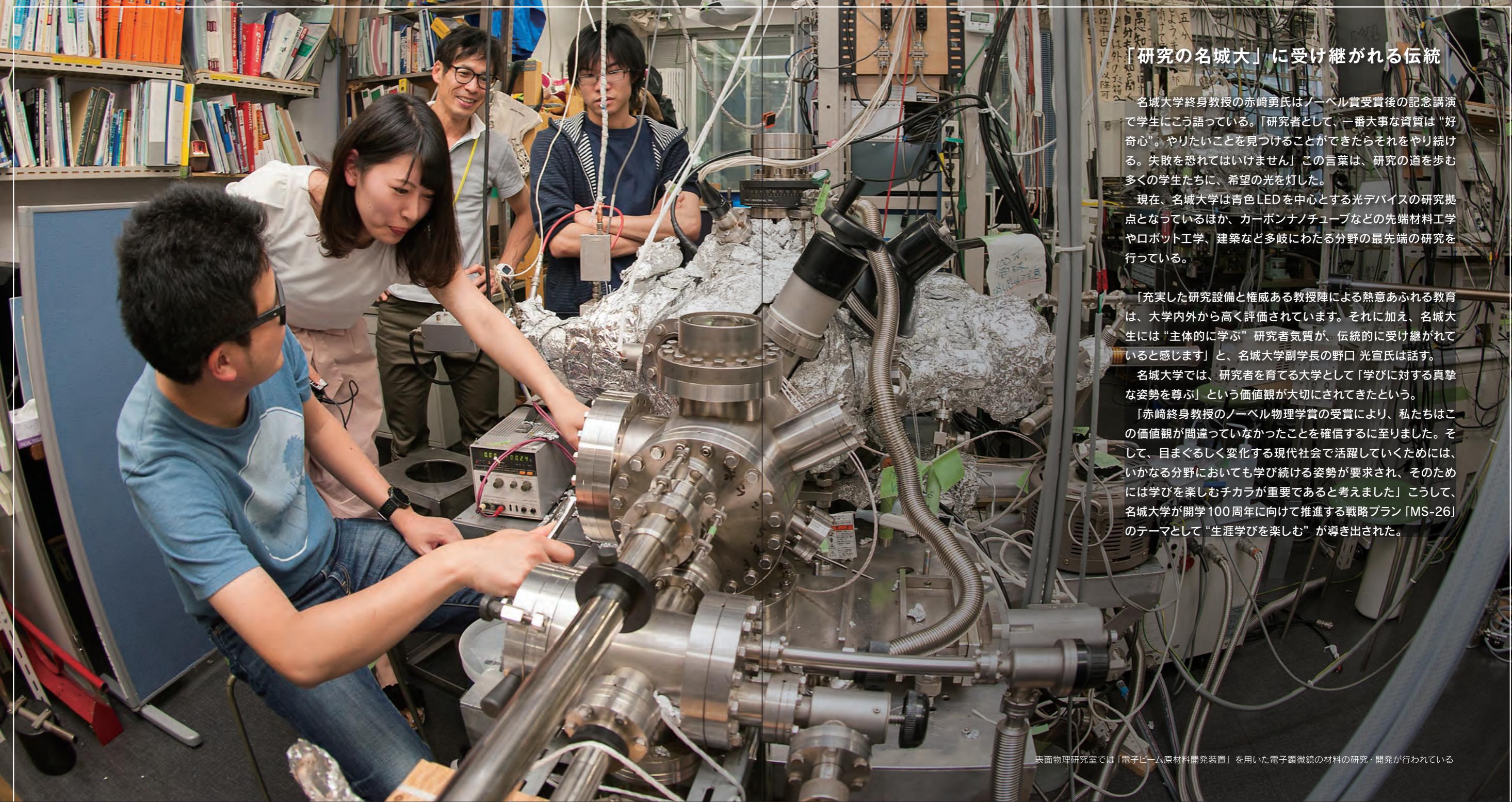
名城大学終身教授の赤崎勇氏はノーベル賞受賞後の記念講演で学生にこう語っている。「研究者として、一番大事な資質は“好奇心”。やりたいことを見つけることができたらそれをやり続ける。失敗を恐れてはいけません」この言葉は、研究の道を歩む多くの学生たちに、希望の光を灯した。

現在、名城大学は青色LEDを中心とする光デバイスの研究拠点となっているほか、カーボンナノチューブなどの先端材料工学やロボット工学、建築など多岐にわたる分野の最先端の研究を行っている。

「充実した研究設備と権威ある教授陣による熱意あふれる教育は、大学内外から高く評価されています。それに加え、名城大学生には“主体的に学ぶ”研究者気質が、伝統的に受け継がれていると感じます」と、名城大学副学長の野口 光宣氏は話す。

名城大学では、研究者を育てる大学として「学びに対する真摯な姿勢を尊ぶ」という価値観が大切にされてきたという。

「赤崎終身教授のノーベル物理学賞の受賞により、私たちはこの価値観が間違っていなかったことを確信するに至りました。そして、目まぐるしく変化する現代社会で活躍していくためには、いかなる分野においても学び続ける姿勢が要求され、そのためには学びを楽しむチカラが重要であると考えました」こうして、名城大学が開学100周年に向けて推進する戦略プラン「MS-26」のテーマとして“生涯学びを楽しむ”が導き出された。



表面物理研究室では「電子ビーム原材料開発装置」を用いた電子顕微鏡の材料の研究・開発が行われている



“多様な学びのコミュニティを創出する”総合大学



「学びのコミュニティ」をつぎの伝統へ

MS-26では、学生が在学中に学びの楽しさに気付き、生涯学び続ける姿勢を身に着けられるよう、多様な学びの経験機会の創出が図られている。

その取り組みのひとつとして、2016年度に“Enjoy Learningプロジェクト”が開始された。学生グループによる学びの課外活動を支援するもので、学生から企画を公募し、選考を通過したグループに活動経費を助成する。

「大学側の役目は学びの機会やきっかけを用意し、意欲ある学生の後押しをすることです。あくまで、学生の主体性を重視しています。初の試みとなつた昨年度は、予想を大きく上回る23件

もの応募があり、そのうち『陸前高田市 図書館再建プロジェクト』や『学生主体による空き家改修プロジェクト』などの12件が助成を受けて活動を展開しました。

MS-26は、こうした課外活動で名城大生が大きく羽ばたくことのできる“学びのコミュニティ”を創り、広げていくことをビジョンに掲げている。「研究の名城大」が培つてきた“学びを楽しむ”という価値観を発展させ、文系学部を擁する総合大学ならではの多様で柔軟な学びの機会を創出する。名城大学は、MS-26の展開とともに文理融合大学として“学びのコミュニティ”という新たな伝統を築いていく。



名城大学管理概要

管理開始 2016年4月
管理内容 設備管理業務
管轄 鹿島建物総合管理(株)中部支社

天白キャンパス建築概要

所在地 名古屋市天白区塙釜口一丁目501番地
面積 敷地面積 95,750.92m²
延床面積 180,458.55m² (全23棟)

●主要設備概要
電気設備 77,000V 2回線受電方式 契約電力 5,360kW
太陽光発電設備 90kW
空調設備 冷温水発生機+空気熱源ヒートポンプチラー+氷蓄熱熱源セントラル空調方式
個別空調方式 (FCU、PAC)
実験用排気設備
衛生設備 高架水槽方式
加圧給水方式 (上水、雨水利用)
実験排水処理設備

八事キャンパス建築概要

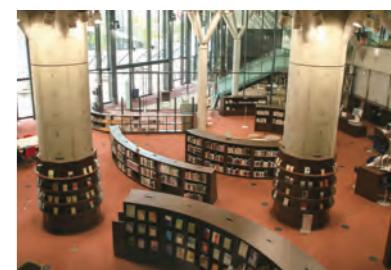
所在地 名古屋市天白区八事山150番地
面積 敷地面積 19,588.13m²
延床面積 32,951.78m² (全6棟)

●主要設備概要
電気設備 6,600V 1回線受電方式 契約電力 1,400kW
空調設備 冷温水発生機+空気熱源ヒートポンプチラー+氷蓄熱熱源セントラル空調方式
個別空調方式 (FCU、PAC)
実験用排気設備
衛生設備 高架水槽方式
加圧給水方式 (上水、雨水利用)
実験排水処理設備

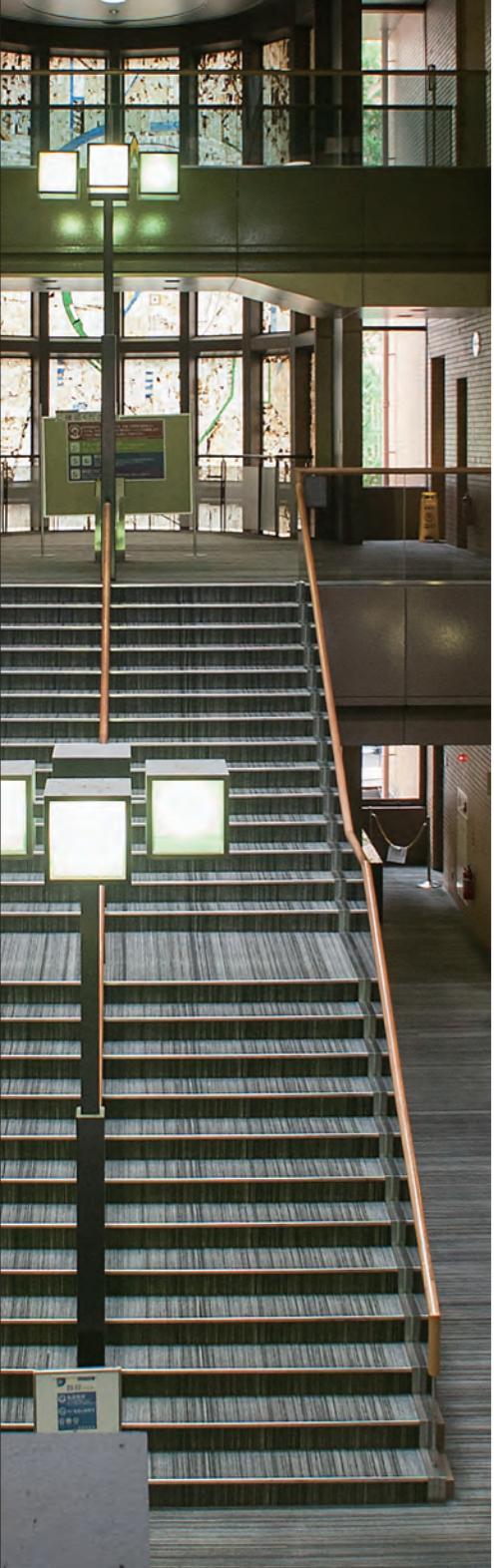
ナゴヤドーム前キャンパス建築概要

所在地 名古屋市東区矢田南四丁目102番9
面積 敷地面積 17,937.07m²
延床面積 33,099.58m² (全4棟)

●主要設備概要
電気設備 6,600V 1回線受電方式 契約電力 598kW
空調設備 空気熱源ヒートポンプチラー+水熱源(地中熱利用)ヒートポンプチラー熱源セントラル空調方式
個別空調方式 (FCU、PAC、GHP)
衛生設備 加圧給水方式 (上水、井戸水、雨水利用)



ナゴヤドーム前キャンパス
キャンパス内に一般利用が可能なカフェやオープンスペースが設けられ、“地域とつながる大学”を象徴する新しい名城大学の顔となった



写真左より
学校法人名城大学 常勤理事
名城大学 副学長
野口 光宣 様

学校法人名城大学
経営本部 施設部 技術参事役
山崎 信明 様

学校法人名城大学
経営本部 施設部 課長
西川 直樹 様

鹿島建物総合管理株式会社 中部支社
執行役員 支社長
三浦 浩

鹿島建物総合管理株式会社 中部支社
名城大学 天白・八事・ナゴヤドーム前
キャンパス 総括所長
津嘉山 創

個性に合わせたキャンパス管理

「研究の名城大」の要をまもる

野口様 開学 100 周年に向け、大学は新しい挑戦を始めていますが、施設整備もその一環です。鹿島建物さんには、天白・八事・ナゴヤドーム前の 3 つのキャンパスを管理していただいているが、それぞれに特徴が大きく異なります。

三浦 それぞれのキャンパスのコンセプトを理解して管理を行うよう努めています。コンセプトを理解していれば、何を優先すべきかが明確になり管理の効率を上げることができます。

山崎様 天白キャンパスは「総合大学」の機能を果たすメインキャンパスですが、他のキャンパスと比べて圧倒的に広

く、建物の棟数も人の出入りも多い。さらに新旧の建物と設備が混在して、管理が難しいのではないか。

津嘉山 管理事務所にはベテランと若手をバランスよく配置しています。古い設備のメンテナンスや、広大な敷地の効率的な管理には、大規模現場で活躍したベテランの経験が活かされます。一方で、新しい設備は、ほとんどがコンピュータで制御されているので、若手の方が操作に慣れるのが早いです。また、緊急の出動には若手の瞬発力が不可欠です。

野口様 天白キャンパスには、「研究の名城大」の要となる研究棟があるのも特徴です。ここには高度な実験設備が集約されていますが、実験の内容によって

は、教授や学生から直接、設備制御の相談があるのではないか。

津嘉山 農学部の細菌培養の研究室で室温を下げてほしいといったご要望をいたしましたことがあります。実験中は停電したり給水が止まるようなことがあってはなりません。ご要望があった際には内容をよく聞き取って万全の環境をつくりあげるようにしています。

三浦 天白キャンパスは電力を多く使う実験設備があるため、エネルギー使用量が多くなっています。今後は省エネの提案にも注力していきたいと考えています。また、修繕計画等においては、ゼネコン系管理会社の強みを活かし、付加価値のある提案をしていきたいと思います。

開かれた、新しい名城大の顔をつくる

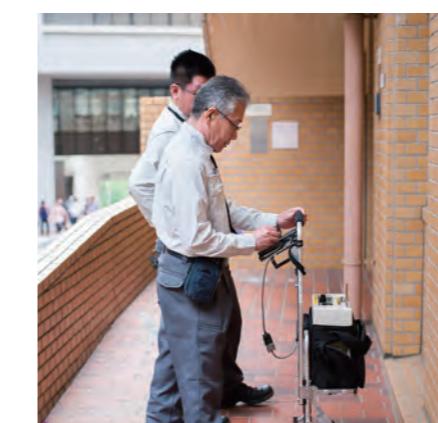
山崎様 外国語学部などがあるナゴヤドーム前キャンパスのコンセプトは、「キャンパスから地域へ、キャンパスから世界へ」。このキャンパスの最大の特徴は、一般にも開放したオープンなつくりになっている点です。開放しているレストランや中央のキャンパス広場には、平日も地域の方がたくさんいらっしゃっています。

野口様 現在は施設というハードの開放ですが、これからは教養講座のようなプログラムを増やし、ソフトの面から「名城大の学びのコミュニティ」を地域に広げていきたいと考えています。

西川様 地域の方の利用がさらに増えれば、室内の温度や明るさなどへの要望も多様化するはずです。公共施設のように、様々な立場の方が快適に過ごせる環境づくりが求められます。

津嘉山 オープンで公共的なゾーンと、学生が学びに集中するためのゾーンでは、それぞれに管理の優先項目を変えながら、臨機応変に対応していきます。また、学生、地域の方が安心、安全に過ごせるよう、設備管理と警備・清掃業務のさらなる連携強化を進めています。

野口様 安全は何よりも大切にしていたいことです。引き続き、名城大学の新しい挑戦を施設管理の面からサポートしていただけるようお願いします。



写真左：天白キャンパスだけでも年間 6 回、66 力所で空気環境測定を行っている
写真右：ナゴヤドーム前キャンパスの「地中熱利用空調設備」の点検の様子。地中熱を利用し、空調機を運転することで、エネルギー使用量を抑えている

知識・経験、 合わさるチカラ

天白キャンパス管理事務所では、様々な管理経験をもつ所員が
その知識や得意分野を活かしながら協力して管理を行っている。

入社から7年間、これまで4つの現場を経験し、今年の春から名城大学に配属となりました。設備の種類が多く、新しいものから古いものまで様々なため、これまでの現場経験をフル活用しながら管理にあたっています。(大澤)

約5年間、名城大学の管理に携わっています。先輩方の知識を吸収しながら、誰よりもこの現場を知っている存在、と自信をもって言えるようになりたいです。(山内)



左：鹿島建物総合管理株式会社 中部支社
名城大学 天白キャンパス管理事務所
大澤 力也

右：鹿島建物総合管理株式会社 中部支社
名城大学 天白キャンパス管理事務所
山内 駿